

# 新年のご挨拶

マニラ日本人会会長

清水 光彦



## 新年のご挨拶

マニラ日本人会 会長 清水 光彦

マニラ日本人会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆さんには、日頃よりマニラ日本人会の活動にご支援、ご協力を賜りまして、この場をお借りしまして御礼申し上げます。マニラ日本人会に関わる全ての関係者のご尽力により、日本人会の活動は成り立っています。皆さん、本当にありがとうございます。

さて、昨 2018 年も 1 月の新年祝賀会に始まり、3 月盆踊り、5 月ゴルフ大会、6 月文化祭、11 月フィエスタと数々のマニラ日本人会の恒例行事を主催してきましたが、思い出深かったものの一つとして創立 50 周年を迎えたマニラ日本人学校の記念事業があります。過去を辿れば、マニラ日本人学校は大正 6 年に児童 24 名を迎え設立、盛時には生徒数 800 名を超えましたが、戦争激化により昭和 19 年に幕を閉じたという前史もあります。関係者の熱意の下、昭和 43 年に日本語補習学級として再び設立、昨年 50 周年を迎えるに至りました。昨年実施された記念事業の一つとして、マニラ日本人学校生徒に対する記念講演がありました。フランス・ラウレル比日協会会長による、祖父の代から始まるラウレル家と日本との関係やラウレル家の誇りを語った講演。ミンダナオ国際大学 イネス・マリヤリ学長によるフィリピンにおける日系人の歴史についての講演。日本人会診療所 菊池先生による「夢を持つことの大切さ」を生徒達に熱く語りかけた講演もありました。講演後、生徒達からは講演者の方々には心温まる御礼の

言葉や可愛らしい感想が送られ、講演者の皆さんも大変感激されていきました。これら 50 周年事業の成功は、学校教職員始め、PTA の方々、日本大使館の方々など多くの方々のご尽力によるものです。また、50 周年事業に対する寄付を募ったところ、多くの法人会員の方々から多大なるご支援頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。これまでの全ての関係者の想いを胸に、新たな 50 年、100 年に渡るマニラ日本人学校の歴史を築きあげるため、これからも全力を尽くしたいと思っております。

昨年は、日比関係がますます緊密な年になった一年でもありました。2013 年には 10 万人ほどであったフィリピン人訪日者数は、2017 年には 42 万人、昨年は 50 万人に手が届こうとしており、瞬く間に香港、タイに次いで東南アジア地域第 3 位となりました。これに伴い、昨年のマニラ・羽田便増便、マニラ・札幌便就航など、フライト件数も 2013 年の週 91 便から、昨年は 154 便と大幅に増えております。私自身は昨年公私含め 2 回しか日本には行きませんでした。フィリピン人の友人たちのほとんどは私以上に日本に行っており、友人たちがアップロードする SNS の写真で東京や日本の近況を知る事が日常化しております。また、引き続き日本からフィリピンへの渡航者も安定的に増加、昨年は 60 万人近くとなっています。英語留学者も年間 4 万人以上いると言われております。また、昨年ジャカルタで開催されたアジア競技大会では、ゴルフ、空手競技など計 4 個のメダルが日本、フィリピン両国にルーツを持つ選手たちによってもたらされました。大相撲における大関 高安の活躍、御嶽海の初優勝といった話題もありました。官民、スポーツ、芸能、様々な分野で新しい日比関係が始まりつつあることを感じます。

また、昨年はフィリピンのみならず、日本も多くの深刻な災害に見舞われた年になりました。西日本を中心とした集中豪雨、大阪北部、北海道などを襲った大型地震、各地の台風被害など、被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に、被害地の早急なる復興をお祈り致します。

いよいよ、2019年の始まりですが、今年、平成31年は平成最後の年でもあります。4月29日天皇陛下ご退位、5月1日皇太子殿下の新天皇へのご即位、改元、10月即位礼、と日本の新たな歴史のページをめくる記念すべき年です。新元号、今年が何元年となるのかも楽しみです。この記念すべき年を当地から寿ぐと共に、人生でこの様な年に巡り合うことができた幸せを噛みしめたいと思います。

本年が、皆様にとって素晴らしい思い出に彩られる年となることを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(了)